

# 子どもに“まち”を開く —子どもとまちづくり:まち保育のススメ—

横浜市立大学大学院都市社会文化研究科・教授 博士(工学)  
三輪律江

電通  
総研



横浜市立大学教授 三輪律江氏

カイシャとシャカイをつなげよう。「まち保育」で育つ人と地域

2023.12.17

#次世代

#地域課題

#QoSフォーラム

電通総研・クオリティ・オブ・ソサエティ  
(QoS)フォーラムより

- カイシャとシャカイをつなげよう。  
「まち保育」で育つ人と地域

<https://institute.dentsu.com/articles/2288/>

- 「まち保育のススメ」解説動画

<https://www.youtube.com/watch?v=NTTuNFW744Y>



まち保育解説

解説動画の  
視聴はこちら

# 私の研究領域と関連項目

## Ⅱ 社会関係資本(社会学)

妊娠期

高齢期

就労者

地域に存在する人的資源

自分を取り巻く様々な人・組織

## Ⅴ こども環境

自分の潜在的テリトリー

## Ⅲ 環境心理

企業経営  
企業緑地

公園緑地  
マネジメント

住宅地  
マネジメント

子育て支援施設等  
のまちでの在り方

## Ⅰ 建築・都市計画

## Ⅳ 参画型まちづくり

地域に存在する物的資源(都市空間・施設)

これらを施策展開するために必要な**実践的・学際的視点**

これからの子育ては  
私的領域から公的領域で行う時代 でも…

## 子どもを育む環境としての 都市計画・まちづくりの課題

“現代版群れた地域コミュニティをつくる”  
そのためのまちづくりの課題を理解する

# 1. 家族の変容(核家族化、夫婦共働き等)に伴い 「地域社会で群れてまねる子育て」(vs子育て)」を どう捉えるかの観点が不足している

- ①男女の役割を分担推進する住宅地開発(住宅政策)から、  
男女が共に働き群れた暮らしをするための居住政策へ
- ②子ども達が集団で過ごすという場の多様化とゆるやかなつくり込み
  - ・遊び相手が見つけられない、他者とふれあう機会が減っている子ども達にとっては、そのような設え(例:単目的施設から複合目的施設)の必要性が高まる。
  - ・限られた地域資源の中で施設とその環境を、誰がどのように 企画、管理、活用していくかといった地域での『エリアマネジメント』の観点に、子どもの主体性の構築も必要。

→**空き家・空きビル、空き教室、公園、道、公開空地等の“まち”のシェア**

子どもの育ちを軸に、そしてライフスタイルにあった、  
個人—家庭—地域—仕事—ケアのバランスがとれた  
「生活者」でいられ続けるまちづくり

→住む—働く—暮らす—**互助の場**の再想定

2. “地域”で子育てすると謳われてはいるものの…

受け手となる“地域”ってどこの誰？私のこと？

その当時者性は不明瞭でわかりにくい

3. 胎児期～特に就学前の子ども達が集積する場が複雑化

子育てを支援する福祉サービスの場としての視点が強く

「これからそこに育っていく子どもが集う場」と視る

子育てを支援する視点が決定的に欠如

4. 子どもで客体ではなく主体として捉える視点の欠如

学童期後半～中学生・高校生にとっての

主体的な居場所となる空間も不足

		胎児期	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	学童期前半	学童期後半	中学生	高校生	成人へ	
親子で一緒に過ごす場	産科・産院・助産院	●プレママ・プレパパ教室等													
	子育て支援事業		●地域子育て支援拠点 ●つどいの広場 ◎子育てサロン ○児童館のキッズコーナー等												
子どもだけで過ごす場	子育て支援事業		●一時預かり事業 ●ファミリーサポートセンター（子育てサポートシステム）												
	教育・保育施設等		●保育所 ●認定こども園						●小学校・中学校（義務教育）		●高等学校				
	教育・保育施設等		●地域型保育事業（家庭的保育・小規模保育・事業所内保育・居宅訪問型保育）			●幼稚園 ●預かり保育			●放課後クラブ ●学童保育						
	その他(認可外)		●地方自治体独自の基準による保育施設（東京都認証保育所、横浜市保育施設等） ●企業主導型保育事業 ●その他の認可外保育施設						●児童館						

胎児期から成人にかけてのライフステージにおける子どもの施設インフラ

# 日本学術会議 提言「我が国の子どもの成育環境の改善にむけて —成育空間の課題と提言2020—」

提言

## 我が国の子どもの成育環境の改善にむけて —成育空間の課題と提言 2020—



令和2年(2020年)9月25日

日本学術会議

心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会  
・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同

子どもの成育環境分科会

この提言は、日本学術会議心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会の審議結果を取りまとめ公表するものである。

日本学術会議心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会  
・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会

委員長	木下 勇	(連携会員)	大妻女子大学社会情報学部環境情報学専攻教授
副委員長	水口 雅	(第二部会員)	東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻教授
幹事	三輪 律江	(連携会員)	横浜市立大学国際教養学部都市学系准教授
幹事	斎尾 直子	(連携会員)	東京工業大学環境・社会理工学院建築学系准教授
	神尾 陽子	(第二部会員)	お茶の水女子大学客員教授、発達障害クリニック附属発達研究所所長
	赤松佳珠子	(連携会員)	法政大学デザイン工学部建築学科教授
	浅野みどり	(連携会員)	名古屋大学大学院医学系研究科総合保険学専攻教授
	伊香賀俊治	(連携会員)	慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授
	内田 伸子	(連携会員)	IPU 環太平洋大学教授・お茶の水女子大学名誉教授
	加野 芳正	(連携会員)	香川短期大学学長・教授
	神吉紀世子	(連携会員)	京都大学工学研究科建築学専攻教授
	定行まり子	(連携会員)	日本女子大学家政学部教授
	田中 稲子	(連携会員)	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授
	都築 和代	(連携会員)	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
	中坪 史典	(連携会員)	広島大学大学院教育学研究科准教授
	福井 秀夫	(連携会員)	政策研究大学院大学教授、まちづくりプログラムディレクター
	湯川嘉津美	(連携会員)	上智大学総合人間科学部教授
	吉野 博	(連携会員)	東北大学名誉教授
	仙田 満	(特任連携会員)	東京工業大学名誉教授

本提言の作成にあたり、以下の方々に御協力いただいた。(※は当時の所属・役職)

西村 文彦	文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部施設企画課企画調整官
小酒井淑乃	国土交通省 都市局都市政策課都市環境政策室 課長補佐
野村 亘	都市局 公園緑地・景観課 公園利用推進官
五十川泰史	道路局 道路交通安全対策室長*
葉袋奈美子	日本女子大学家政学部教授
宮崎 祐治	社会福祉法人 日本保育協会
高橋 秀俊	国立精神・医療研究センター児童期精神保健研究室長
山中 龍宏	緑園こどもクリニック院長

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t297-5.pdf>

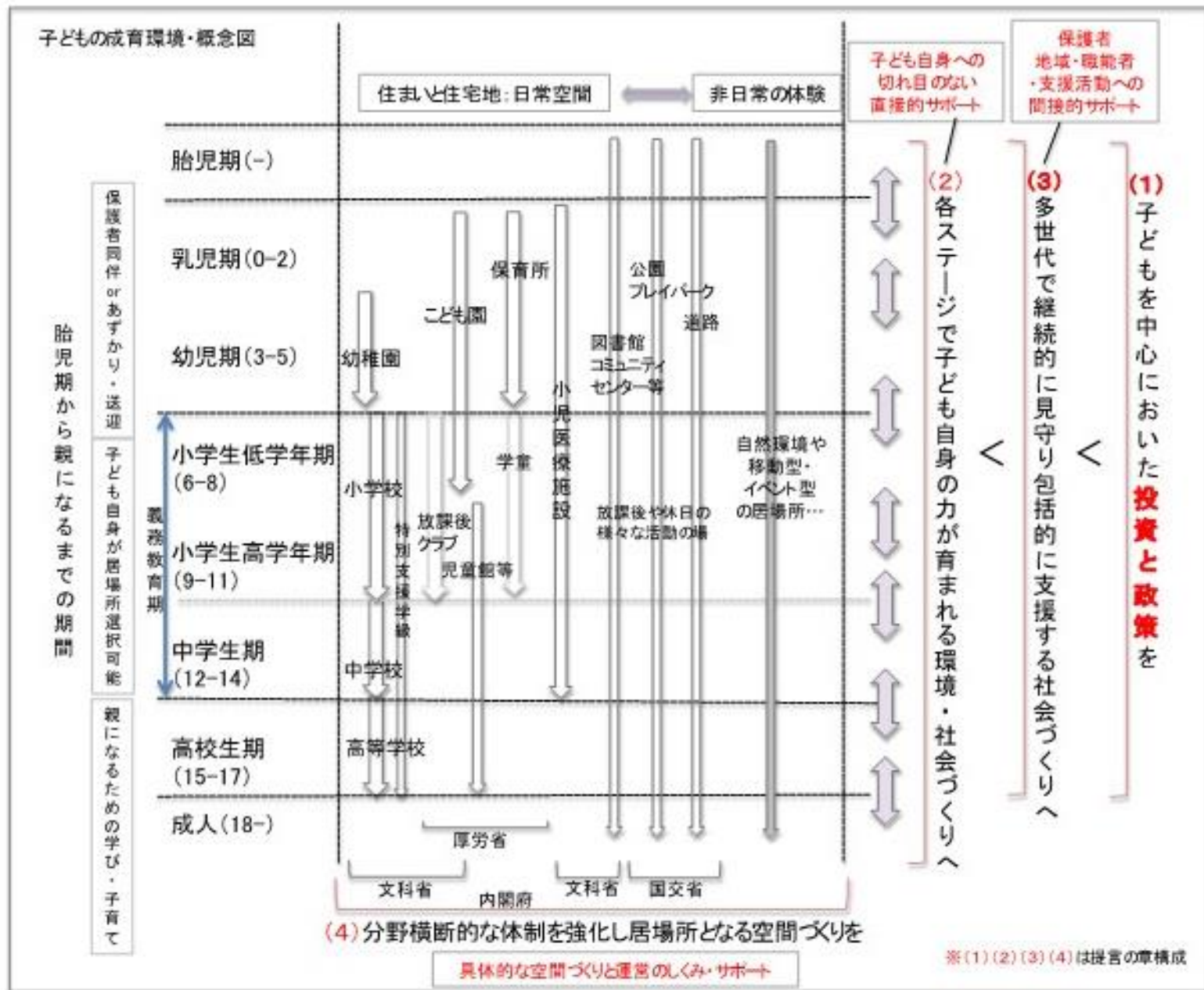


図2 子どもの成育環境を捉える視点を通じた概念図

(出典) 子どもの成育環境分科会で作成



# 現代の子育ち環境の変化の理解

子どもの育ち、親の育ちには  
“群れ”と“まね”が欠かせない

子どもってまちのどこで育つ？  
出会う？遊ぶ？

# 『運動の敏感期』の乳幼児との外出

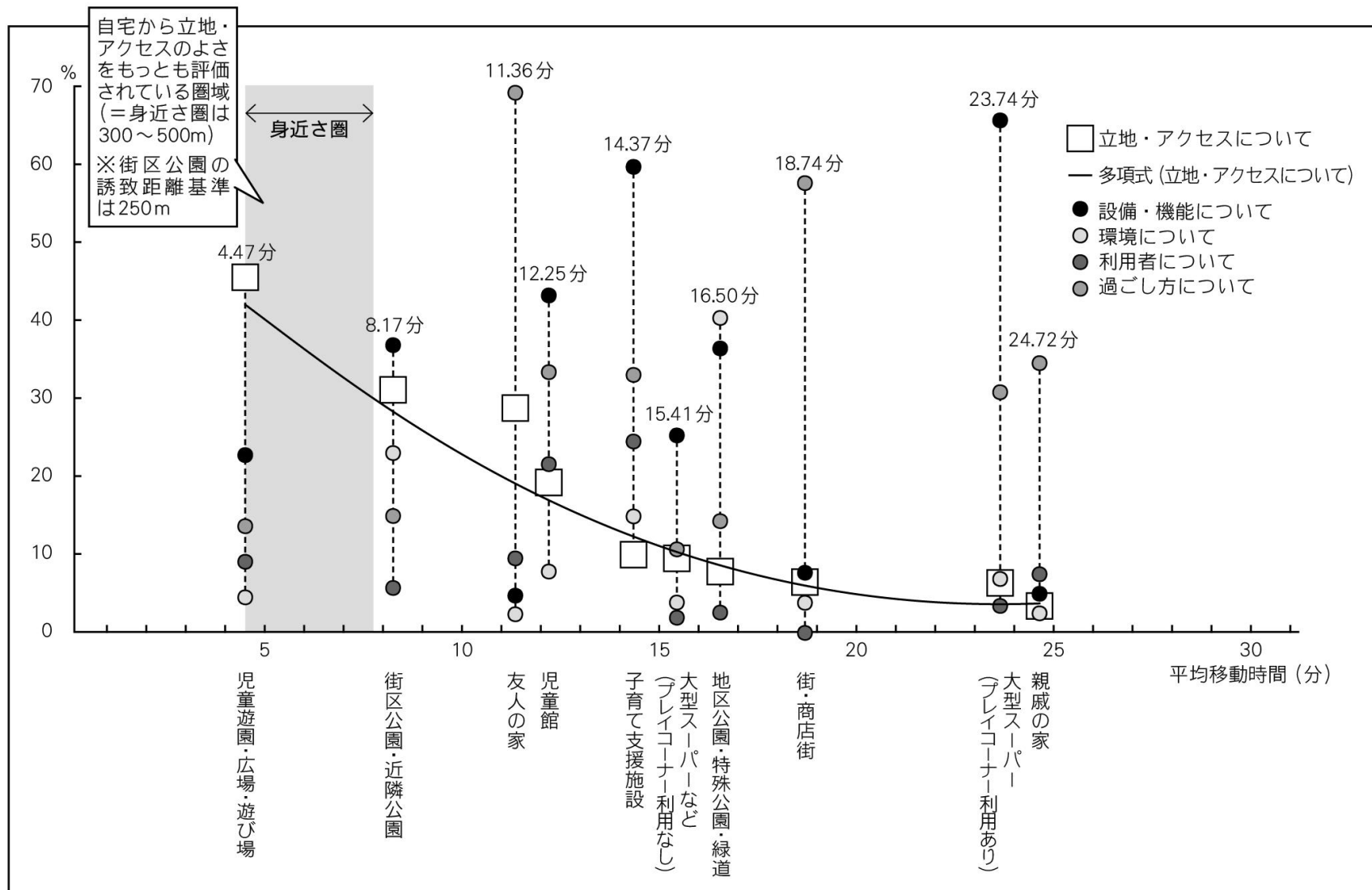
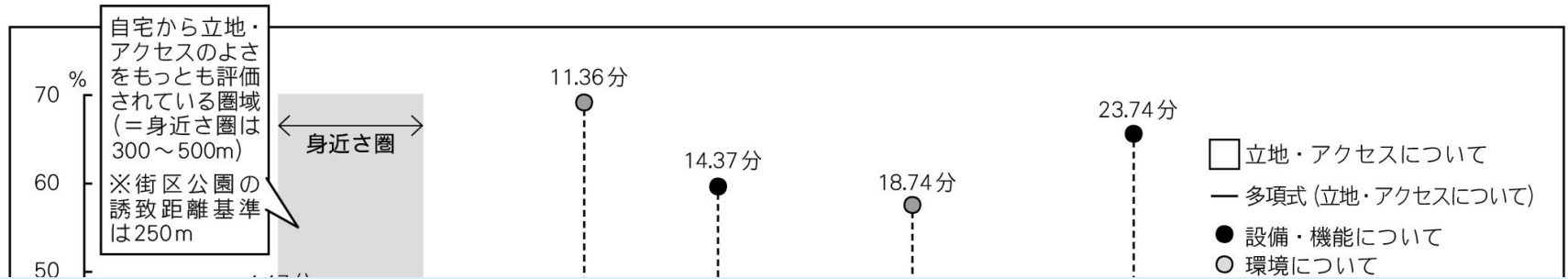
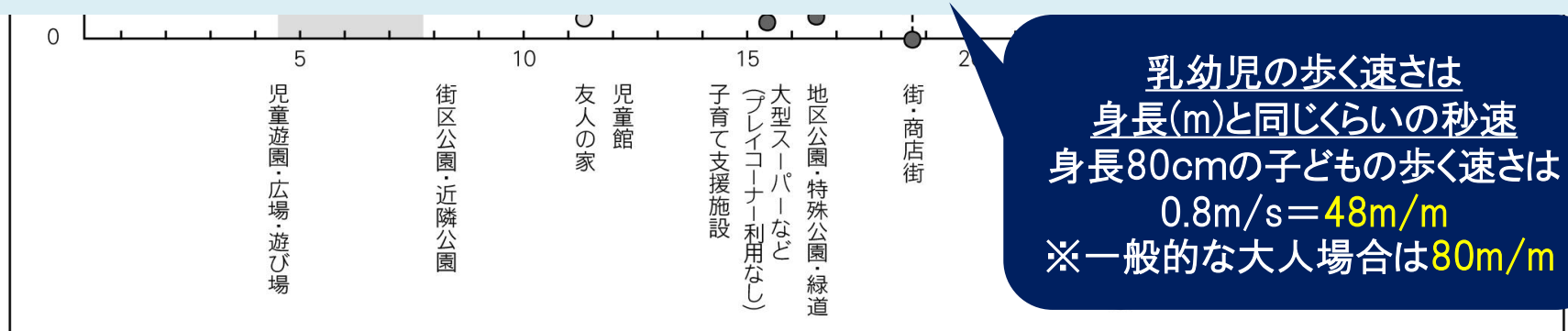


図1. よく行く場所までの平均移動時間とその場所の選択基準(評価)の関係(三鷹市、2003年度)

# 『運動の敏感期』の乳幼児との外出



- 6か月～4歳半頃の『運動の敏感期』の子どもにとって、「歩く」ことは生活に必要な運動能力を獲得するのに大切な行為
- 近くにあるから利用する場所 × 遠くにあっても利用したい場の存在
- 親子にとっての「身近さ」はおおよそ時間にして5～7分、距離にして250～300m程度(『乳幼児生活圏』)と意外に狭い



乳幼児の歩く速さは身長(m)と同じくらいの秒速  
 身長80cmの子どもの歩く速さは  
 $0.8\text{m/s} = 48\text{m/m}$   
 ※一般的な大人場合は $80\text{m/m}$

図1. よく行く場所までの平均移動時間とその場所の選択基準(評価)の関係(三鷹市、2003年度)

- 6か月～4歳半頃の『運動の敏感期』の子どもの外出は、  
歩くことを移動手段として考えず、「歩くために歩く」の実践期と捉える
- 出産直後はどんな人でも行動圏が狭まり、行く場所も画一的になる
- 近くの同じ公園や商業施設のみに行っている人ほど  
近所づきあいが薄くなる傾向
- 自分が居住している地域を知らない・知れないこと(例：里帰り出産)は  
その地域での子育てに不安を感じやすい
- 遊び場の多い小学校区に住む母親ほど産後うつになりにくい
- 合計特殊出生率とまちの自然や緑、身近の集いや地域交流の場には  
相関関係がある?!
- 周辺に知り合いや多様な居場所を持っている人ほど定住志向がある
- ソーシャルサポート決定打は「情緒的サポート」!
- 地域に子どもを預けられる人がいることは、  
子育て不安を抑え、メンタルヘルスを良好にする可能性も
- 保護者も不安な小1の壁、小4の壁：放課後の子ども達をどう考える?!
- 多様な遊び・多様な遊び場所を持っている子どもほど幸福感が高い。

- ◎子どもと親の育ちに「群れ」と「まね」は欠かせない。  
その状況をどう「まち」に創り出すのか。
- ◎子どもの育ち、保護者自身の安心醸成にとって  
大事な「まち」との関わりを  
どの段階で理解するか。理解してもらうか。どう伝えるか
- ◎乳幼児生活圏(300m生活圏)という身近な地域コミュニティの中で集いや出会い(「群れる」)の環境をどうつくるか
- ◎場所だけあってもダメ。その場所につなげる包括的な仕組みと総合的なマネジメント体制も必要。
- ◎なにより、他人の子どもの存在、  
そして子どもの主体性を意識する大人をどう増やすか。

# 『まち保育』

子どもの育ちに“まち”を開き  
子どもとともに“まち”が育つ…

子どもと保護者の育ちを  
血縁関係だけでなく  
地域社会で共有するため  
多様な主体を巻き込みながら  
地域資源を活用した  
まちとの関り方を促す手法論



## 「保育」

乳幼児を適切な環境のもとで健康・安全で安定感をもって活動できるように**養護**するとともに、その心身を健全に発達するように**教育**すること

「**まち保育**」は、子どもたちの生活をより豊かにするものです。  
それは、保育施設・教育施設の園外活動だけを指すではありません。

まちにあるさまざまな資源を保育に活用し、  
まちでの出会いをどんどんつないで  
関係性を広げていくこと、  
そして、子どもを囲い込まず、  
場や機会を開き、  
身近な地域社会と一緒に  
まちで子どもが育っていく土壌づくりをすることを  
私たちは「**まち保育**」と呼んでいます。

子育て支援の場においても、  
家庭生活においても、  
また地域の活動においても、  
「**子どもがまちで育つ**」視点を  
大切にしてほしいと考えています。

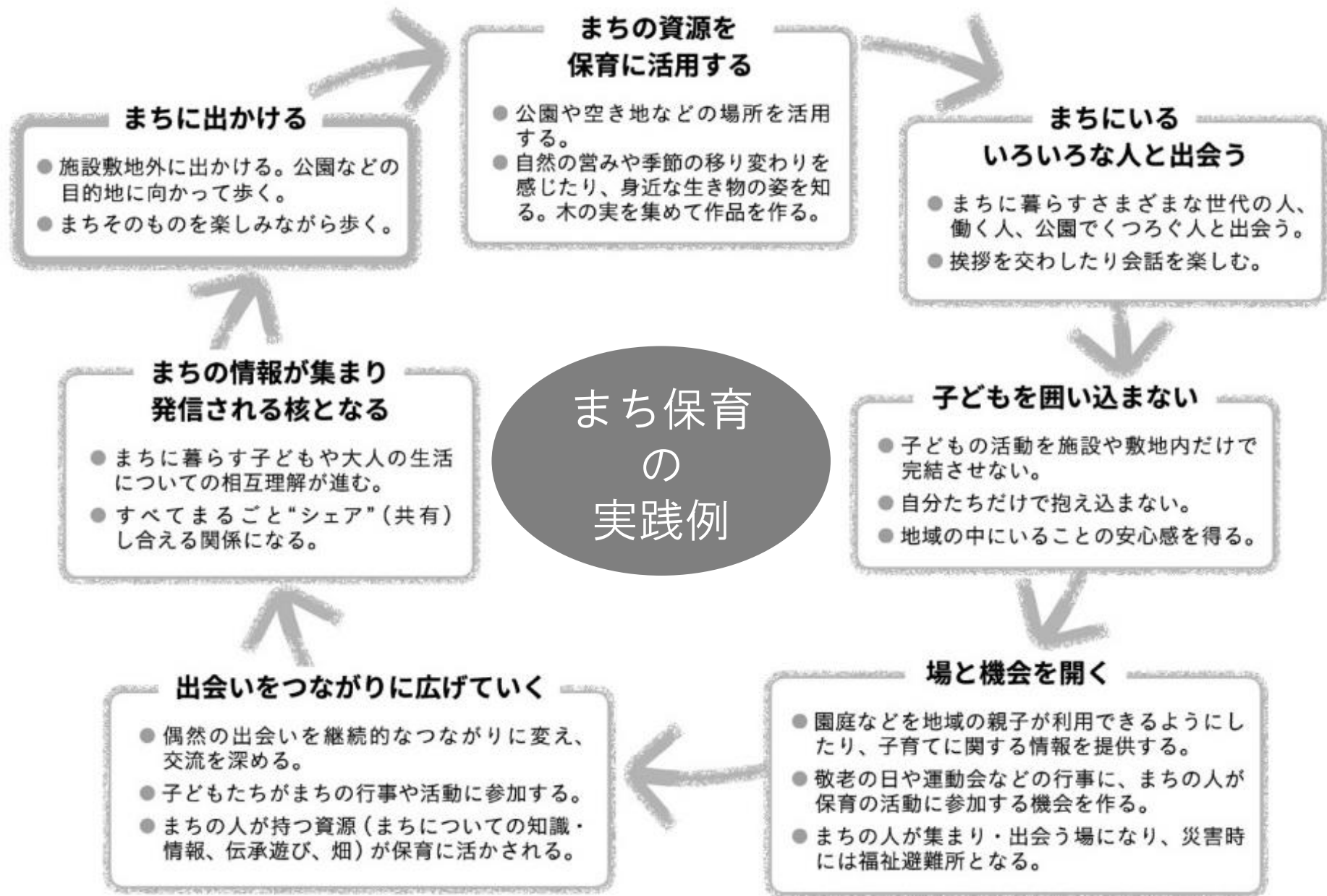


出典：

『まち保育のススメ

—おさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり』

2017年5月5日発刊（萌文社）より



※まち保育の実践はさまざまな形が考えられます。ここで示しているのはほんの一例です。



# まち保育の4つのステージと多様な主体性の育み

“まち保育”の実践からみえたコミュニティデザイン、参加のデザイン要素

## (1)まちで育てる

- ①保育施設がまちをフル活用する必然性の理解
- ②まちとの仲介ツールとして「日常のお散歩活動」へ注目  
→子ども達自らが自分たちのまちを評価する「参加」の仕組みとしても機能

## (2)まちで育つ

- ①同じまち(範囲)を違った視点でなんども歩くことの意義  
→お散歩ワークショップを軸に地域の「組織」と「活動」が繋げる
- ②媒体を通じた活動の見える化

## (3)まちが育てる

- ①関わった人たちにお願いするー受け入れることで増えていくコミュニティファン
- ②まちに暮らすたくさんの人と顔見知りになっていく現場の安心感
- ③保育施設が「住民」として地域に受け入れられ連携する体制へ

## (4)まちが育つ

- ①まちなかでの双方向の関係をより培う  
→楽しませてくれているまちへの感謝、感謝されて気づく自分のまちへの働きかけ
- ②継続することで子どもと関わりない人々に「子ども」の価値に気付く人が増える  
→「どこかの子」でなく「わがまちの子」という発言→“明瞭な”当事者性への育み
- ③地域まちづくりに子どもの視点を組み込むことで子どもも大人も変化する

いつも  
伝えていること

# まち保育の4つのステージが実現されるための まちのマネジメントの観点

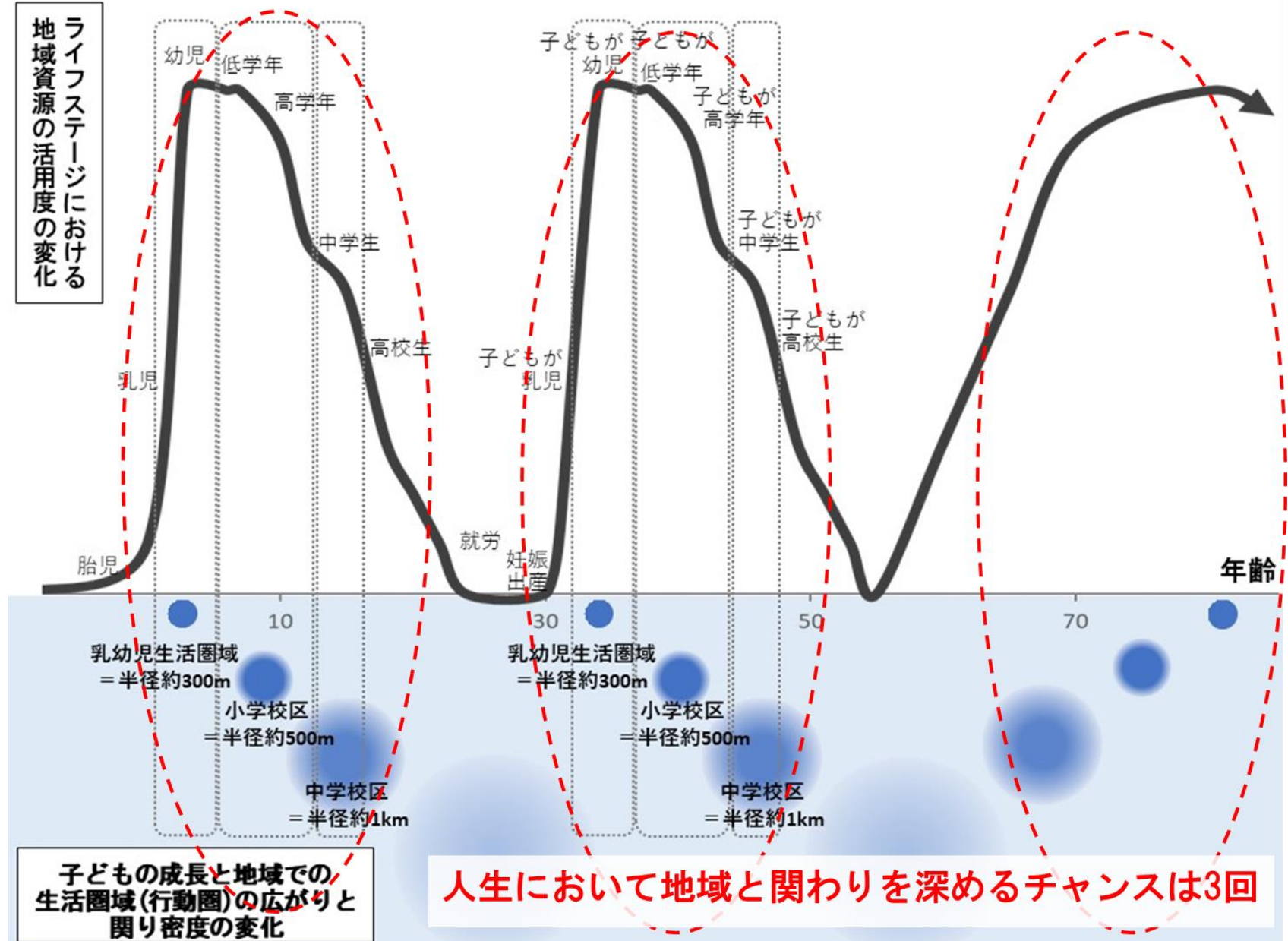
## セミパブリックを豊かに開く視点一点から線、線から面へ

- ◆まち保育のきっかけをつくる「点」のつくり込みの工夫：
  - 空き空間を活用する
  - “すき間”と“境界”のデザインの工夫
  - 居住者ニーズと地域をつなぐ設えと参加のデザイン
  - 弱い専門性の“人”の集積と弱い専門性の“場”の創出
  - 非公開緑地(企業緑地)の活用への着目
- ◆まち保育が滲み出す点を「線」で結び繋げる仕掛け：
  - まち保育には欠かせない“道”という空間を改めて見直す
  - まち保育に欠かせない地域資源の存在を軸に“あえて”立地
- ◆まち保育を「面」に広げて行く戦略：
  - “まち”がマネジメントも込みで戦略的に施設を誘致する
  - 計画住宅地の生活圏にまち保育マインドの“タネ”を

## 子育てを主軸にまちづくりの担い手を増やす仕組みづくりへ

- ◆まちをフル活用することの多様な効果を伝える
- ◆子育て施設などの地域貢献的側面を「見える化」し評価する
  - 地域と施設をつなぐ仲介役(コーディネーター)の専門性・職能

# 乳幼児生活圏は互助生活圏



# 子どもまちづくり



共著  
松本暢子  
三輪律江  
吉永真理

編著  
木下勇  
寺田光成



# 型録



鹿島出版会

001

- |                            |                     |
|----------------------------|---------------------|
| 001 子どもの参画                 | 042 ちょこつと座れる場所      |
| 002 子どものライフステージと生活圏        | 043 まちの顔が見える掲示板     |
| 003 子どもの発達と住まい             | 044 さんぽとみちくさ        |
| 004 子どもの遊びの広がり             | 045 おさんぽネットワーク      |
| 005 スクリーンからグリーンへ           | 046 店先学校            |
| 006 ほどよく届く大人の目             | 047 みちは舞台、まちは劇場     |
| 007 まちをあげて出生を祝う            | 048 まち保育            |
| 008 子どもと育つ住宅地開発            | 049 遊びあふれる園庭        |
| 009 子ども部屋                  | 050 自然保育            |
| 010 ほっこりと囲む食卓              | 051 まち学校            |
| 011 子どもと料理できるキッチン          | 052 緑の校庭            |
| 012 縁側                     | 053 遊べる池とビオトープ      |
| 013 つながるロビー                | 054 遊び場校庭開放         |
| 014 屋上緑化のある住宅              | 055 まちなか学習農園        |
| 015 開かれた庭                  | 056 SOSを受け止める専門家    |
| 016 地先遊び場                  | 057 ただ居られる場所        |
| 017 あいまいな境界                | 058 地域クラブでナナメの関係    |
| 018 シェアする暮らしの場             | 059 放課後カフェ          |
| 019 コーポラティブ住宅              | 060 校舎に新たな物語        |
| 020 遊び小屋としてのコテージ           | 061 空き教室を地域に開く      |
| 021 鶏の飼えるエコビレッジ            | 062 まちが遊び場          |
| 022 菜園のある住宅                | 063 遊びの協議会          |
| 023 村をつくって育つ               | 064 コミュニティレイワーカー    |
| 024 子ども110番の家              | 065 移動式遊び場          |
| 025 空き家活用                  | 066 ホスピタルプレイ        |
| 026 多世代で団地再生               | 067 災害復興と子育て支援      |
| 027 8戸単位のコモン               | 068 災害・緊急時の遊び場      |
| 028 まちなか近居                 | 069 子どもがつくるまち       |
| 029 近くに仕事場                 | 070 子どもがつくる公園       |
| 030 手に届くアフォーダブルな住宅選び       | 071 インクルーシブな遊び場     |
| 031 子どもを預けあえる近隣            | 072 ティーンのためのスケボーパーク |
| 032 住宅選びは近隣選び              | 073 高架下を表舞台へ        |
| 033 街路網のかたち                | 074 地域を支える冒険遊び場     |
| 034 手づくりの歩車共存道路            | 075 火を囲む場           |
| 035 子どもにやさしい交通ルール          | 076 みんなでつくる利用ルール    |
| 036 遊び場道路開放                | 077 遊びの箱            |
| 037 遊び場をつなぐ<br>ペDESTリアンデッキ | 078 庭としての街区公園       |
| 038 まちの静脈としての緑道            | 079 広場としてのポケットパーク   |
| 039 関わりあいの種が育つあぜみち         | 080 地域のお祭り広場        |
| 040 猫のみち                   | 081 開かれた社寺境内        |
| 041 お地藏さんが見守るみち            | 082 怖いところ           |
|                            | 083 探検の場            |
|                            | 084 はらっぱ            |



ISBN 978-4-306-07364-7  
C3052 ¥2400

定価(本体2,400円+税)

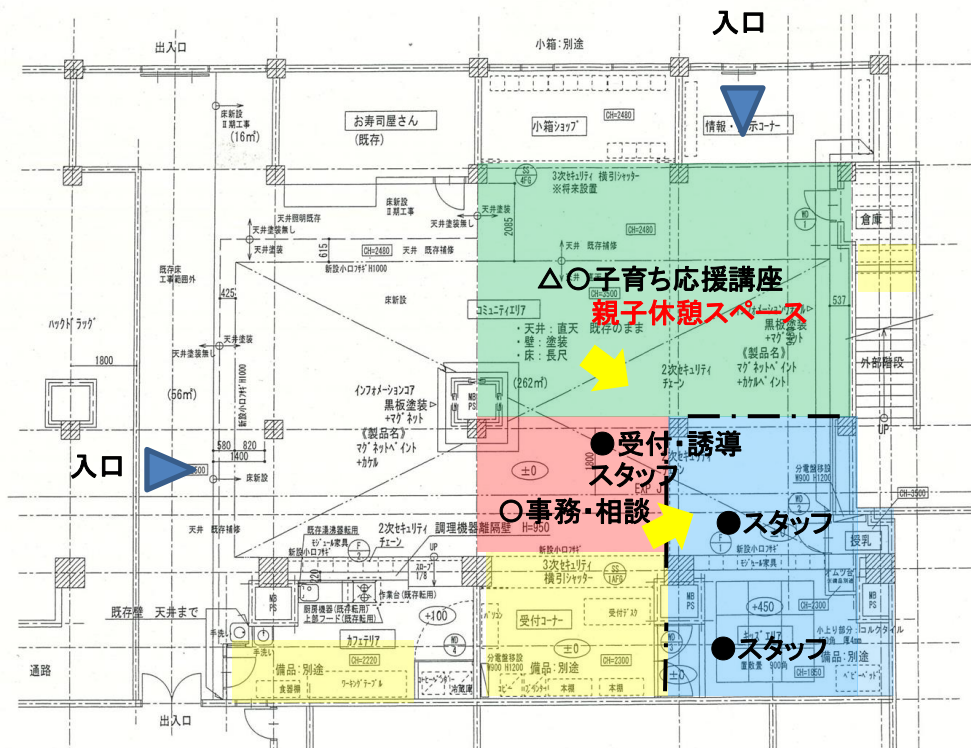
- |                     |
|---------------------|
| 085 木登りできる木         |
| 086 まちの生き物係         |
| 087 食べられる景観         |
| 088 みんなの庭           |
| 089 入ってもよい里山        |
| 090 秘密基地            |
| 091 生きられる水辺         |
| 092 橋の下             |
| 093 たまり場            |
| 094 駄菓子屋            |
| 095 まちの工作室          |
| 096 だれでも食堂          |
| 097 どこでもカフェ         |
| 098 小さな塾            |
| 099 家のような児童館        |
| 100 ユースセンター         |
| 101 0歳から100歳までの集会施設 |
| 102 子ども会とジュニアリーダー   |
| 103 通過儀礼としての共同行事    |
| 104 移住の子育てまち育て      |
| 105 道の駅が暮らしの場に      |
| 106 身近なケアのつなぎ役      |
| 107 公共ばあちゃん・じいちゃん   |
| 108 ( )             |

現代版群れた子育ちが実現できる

まちづくりのために

＜参考事例＞

# エリアマネジメント組織による親と子のつどいの広場の運営



- 広場コア部分: 開催中(月・水・木・金・土 9時30分~16時)は常に占有。(つどいの広場整備区画40.68㎡部分)
- 広場導入部分: 開催中は受付・広場誘導エリアとして占有。

  (約21㎡)  
 外部講師等による子育て応援講座を開催する日(月10日程度)は占有。また親子連れが昼食を採るために11-13時は優先利用。その他の時は広場利用者以外も可となり、広場への誘導や止まり木機能として活用。(約74㎡)

  物品保管・事務室兼ねて占有(約60㎡)

- 広場スタッフ(開催時は常駐)
- 応援スタッフ
- △ 専門アドバイザー



# ■ 金沢シーサイドタウンと並木ラボ

1960年代後半横浜市六大事業のひとつとして横浜市金沢区埋立地に造成された住宅団地

産業団地：企業の撤退や業種業態の変化

住宅団地：高齢化・人口減少・都市ストック（基盤、建築物等）の老朽化

今日的な住環境改善の必要性  
（ユニバーサルデザイン化等）

地区外での認知度・知名度の低さ



多分野・地区間の連携  
担い手発掘  
職住近接地区の実現  
地域ブランディング  
多文化共生 等の必要性

一般社団法人金沢シーサイドあしたタウンが令和3年3月1日に設立され、同法人によりあしたタウンプロジェクトの自立自走したエリアマネジメント体制が確立されました。

## ■あしたタウンプロジェクトの核組織

一般社団法人金沢シーサイドあしたタウン 理事 11名（代表理事2名含む）

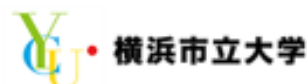
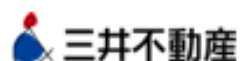
※令和4年度より新たに理事3名が就任予定

## ■並木ラボ運営協力サポーター



株式会社三春情報センター

## ■あしたタウンプロジェクトサポーター



富岡並木ふなだまりgionbune公園愛護会

金沢シーサイドタウン連合自治会

金沢センターシーサイド名店会

金沢シーサイドタウン地区社会福祉協議会

学校法人関東学院大学

独立行政法人都市再生機構

特定非営利活動法人Aozora Factory

一般社団法人横浜金沢産業連絡協議会

横浜市金沢団地協同組合

金沢シーサイドタウンに所在する公共福祉施設、教育機関のみなさま（以上、順不同）



## ■(一社)金沢STあしたタウン 5つの重点プロジェクト

- 【子育て】子どもが豊かに育つことができる環境や状況をつくり、それによっておとなや街もともに育つこと
- 【いきいき】高齢者やマイノリティのある人がいきいきと生活でき、すべての人がここで生活していききたいと思えるようになること
- 【住まい】時代やライフスタイル、ライフステージの変化に応じて、適切かつ豊かな住まいに住み続けられること
- 【場づくり】公園や緑地、プレイロット、地域拠点など、公共や共有の空間の魅力を向上させ、人々がつながれる場所としていくこと
- 【つながり】地域内外の情報の交流を進めて人や活動が知り合い、相互につながり発展することで、まちのアイデンティティとブランドを育むこと

みんなであした世代を応援する並木の実現  
そのためのリアル拠点として「並木ラボ」を運営

# ゆるい支援のアウトリーチ／ 公園や広場を巡る遊びや出会いの創出

金沢シーサイドタウン

(PR)

## 身近な公園で楽しんで

親子で楽しむ「ばあくるin並木」

金沢区並木の団地「金沢シーサイドタウン」で10月25日、身近な公園や広場で外遊びやおしゃべりを楽しむ新企画「ばあくるin並木」がスタートした。

ばあくるin並木は、金沢シーサイドタウンの活性化に

取り組む「あしたタウンプロジェクト」内の子育てプロジェクトによる新企画。横浜市立大学でまちづくりを研究する三輪律江教授や大学生、地元の主任児童委員や有志が中心となり、団地を管理するUR都市機構などと協力し、毎回異なる公園で実施する。「公園（パーク）に来る」を略して名付けられ、三輪教授は「この地域には身近で楽しめる小さな公園や広場がたくさんある。一つの拠点ではなく、いろいろな場所に出向いて身近な人同士が出会えたり楽しめる場をつくれたらと思っているので、気軽に立ち寄ってほしい」と話す。



子どもに人気だったシャボン玉

## 子育て相談も

初回は並木1丁目15街区公園で開催。保育園児や近隣に住む親子らが公園を訪れ、大学生たちとシャボン玉や遊具などで遊んだ。「バッタ」や「おはな」など身近なものを見つけて楽しむ「ばあくるビンゴ」も用意され、カードを片手に公園の周りを探検する子も。3人の子どもと参加した母親は「地域の人に遊んでもらい、子どももうれしそう」。また、「地域子育て支援拠点」のリーダーや市大の有本准教授（保健師）らも参加し、子育て相談にも応じた。

企画を担った学生の一人、佐藤歩美さん（横浜市大3年）は「楽しそうに遊んでくれてうれしい。思っていたより小さい子どもたちがたくさん来てくれたので、年齢に合った遊びを取り入れたい」。次回は11月29日（月）午前9時30分から11時に、並木2丁目のりべか公園で開催予定。申し込みは不要。直接会場へ。



手づくりの「ばあくるビンゴ」

# プレーリヤカー・プレーカーとは？

「プレーリヤカー」は、小型リヤカー等に遊び道具を積んで公園等に向きます。リヤカーに積んでいるものは落書きボードや砂遊び道具、ままごとセットに水遊び用プールなど、場所や季節によって様々です。対象は主に乳幼児親子です。

「プレーカー」は、軽自動車に遊び道具を積んで公園に向きます。プレーリヤカーとの違いは、1回の活動時間が長いこと、午前中は乳幼児親子、午後は小学生も対象となり、ダイナミックな遊びを展開します。七輪を使った火起こし、火遊びの体験ができる活動もあります。



プレーリヤカー



プレーカー

詳しくは、[活動の様子](#)のページでご紹介しています。

# 初めてで不安なのですが・・・

親子で楽しく交流できるように、スタッフがお手伝いをしています。ピンク色のバンダナがスタッフの目印です。(つけていないスタッフもあります。)是非お気軽にお声掛け下さい。



# 『プレーリヤカー・プレーカーであそぼう！』

世田谷区ホームページ

<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kodomo/002/003/d00139508.html>

# 子供の「外遊び」絶滅危機

## 街中に遊び場「プレーバス」期待

都市部に暮らす小学生の8割が、平日は全く外遊びをしない。子供の遊び場について研究している木下勇・千葉大教授の研究室の調査から、そんな実態が浮き彫りになった。背景にあるのはお預け通いやゲームの浸透、公園や路地などの遊び場の減少など。木下教授はその解決策に、遊び道具を積んだ「プレーバス」の普及を提案している。(津川綾子)

### 楽園でない公園

「平日、うちの子はほとんど外遊びをしない」と。この話の3人の子を育てる神奈川県藤沢市の母親(44)は、子育てでやるべき以外の遊びをすすめて、めなさい、と注意される。木下教授は「公園には不特定多数の出入りもあり、なかには不審な人物の姿も。不安なのでその公園には子供だけで行かないよう



「コドモ・ワカモノまちing」のプレーカー。木切れとごさを積み、道路や広場に遊び場を設ける(コドモ・ワカモノまちingの星野諭代表理事提供)

に、と禁止したと話した。この状況について、日本術会議「子どもの成長環境研究会」の委員長も務める木下教授は「今や子供にとって外遊びは日常的に気軽にやられる行為ではなくなっている」と説明する。木下教授の研究室の寺田光成さんが平成30年に都市部(千葉市)と農村部(群馬県みなかみ町)で小学生計586人に平日放課後の遊びについて調査をしたところ、都市部で8割、農村部で6割が、平日放課後に全く外遊びをしていない、と答えた。

### 生きる力を育む

子供が外遊びをしない理由は何か。木下教授は、禁止事項や老朽化遊具の撤去などで公園が子供に魅力的



ではなくなったこと、室内のゲーム遊びが常態化していること、放課後は習い事の手配があり、スケジュール管理が母親に委ねられていることなどを挙げた。寺田さんも、「外に友達がないから外に出る理由がない」と小学生が話のそ聞いたという。

ではなぜ、子供にとって外遊びは必要なのか。木下教授は「社会や自然の多様な環境との出会いや、経験から学ぶ大切な機会」と話す。また、お茶の水女子大学の内田伸子名誉教授(発達心理学)も「幼児期の遊びは、自尊心や意欲、人工

### 地域の大人とも

「プレーバス」とは、遊びのフロアを遊し、街や公園などに遊びの材料を積んだバスなどで出向いて遊び場を開く社会活動。同国では1970年代、車社会の発展で子供の遊び場だった道が危険になった。町の広場などにプレーバスが出かけ、子供の遊び場を創出する活動が盛んになった。現在は同国で160団体が600台を運営中という。

日本では、NPO法人「コドモ・ワカモノまちing」(相模原市)が、平成20年から同国被災地で「プレーバス」同様の「遊びの出前」活動を開始。現在、5団体を準備中。代表理事の星野諭とは、「大人の日常空間に子供の遊び場を作ること、地域の大人と子供がつながるきっかけ作りができる」と、コミュニケーションで世代間の縁結びにも子供の効果も語った。子供の外遊びの機会が減りつつある。木下教授は「町ごとでも遊びのドーナズが展開できれば」と話している。

# “道”という空間を改めて見直す

とうきょうご近所みちあそび



みちあそび  
パートナー  
募集中!>>



ご近所づきあいという言葉があります。ただ同じ街に住んでいる人のことを、よく知っている。それは、街を自分だけのものではなく、わたしたちみんなの街として考えられるということです。

自分や家族の暮らしの安心は、一人ではつくりえないもの。だから、みんなの街になることは住みよい街をつくる上でとても大切なことだと考えます。

「とうきょうご近所みちあそび」は地域の人たちみんなで、身近な道で遊ぶことを通して大人も子どもも住みよい街を考えるきっかけをつくります。

誰もが通れる場所で、大人も子どもも一緒になって遊べば、みんなが仲間になっていく。それは、ご近所の顔見知りを増やす第一歩にも、ご近所づきあいを続けていく理由にもなるはずです。

さあ、あなたの街でも、みちあそびをはじめませんか。

## 英国 ホームゾーン、プレイイングランド



英国ではプレイイングランド、プレイウェールズ、ロンドンプレイなど子どもの遊びの環境の向上に政策提言をして、また実施に行政、民間企業と連携を組みながら進める団体が組織されてきている。



写真: 上©Adrian Sinclair  
左Children in The City by Lia Karsten & Willem van Vliet-CYE, 2006



特に住宅前の道路を子どもが安心して遊べる環境にするホームゾーンの推進などに貢献している。



出典: 木下勇氏より


一般社団法人TOKYO PLAY  
『とうきょうご近所みちあそび』  
<https://playbourhood.tokyoplay.jp/>

# まち保育をコンセプトにした住宅地マネジメント

●「生まれる前から青少年期までの子どもを育てる世代を中核としながら、持続可能で多世代が住みやすい地域」を実現する、まちづくり開発へのコンセプト

(グレースシア横浜 十日市場／横浜市緑区十日市場センター地区 22 街区)

[https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/kenchiku/2022/0301\\_jutakukansei.files/20230301\\_jutakukansei.pdf](https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/press/kenchiku/2022/0301_jutakukansei.files/20230301_jutakukansei.pdf)




横浜市記者発表資料

令和 5 年 3 月 1 日  
建築局住宅再生課  
相鉄不動産株式会社  
伊藤忠都市開発株式会社

SDGs 未来都市・横浜「持続可能な住宅地推進プロジェクト」(緑区十日市場町周辺地域)  
**まちに開かれた新たな集合住宅「グレースシア横浜十日市場」が完成**  
～エリアマネジメントの活動財源に先駆的な仕組みを導入！～

緑区十日市場町周辺地域では、民間活力を導入し、周辺住宅地を含めた土壌の課題解決を目指すため、十日市場センター地区(20、21、22街区)の市有地を活用してまちづくりを進めています。

このたび、22街区において、子育て世帯を支えることをテーマとした住宅「グレースシア横浜十日市場」が竣工しました。今後、先述街区(20、21街区)等と連携したエリアマネジメントの取組を推進するとともに、新しい持続可能なまちの形を目指します。






令和 5 年 3 月 16 日(木)にメディアの皆さま向けの内覧会が開催されます。  
詳細は別紙、相鉄不動産株式会社の記者発表資料をご確認ください。

**1 「グレースシア横浜十日市場」の特徴**

(1)まちに開かれた「シェア共用部」  
共用部は、子どもから大人まで、誰もが新しいことにチャレンジするきっかけとなる場所、様々な道具や素材が備わった道具箱のような空間です。これを「シェア共用部」として、居住者はもとより、地域の皆様の利用に供することにより、様々な交流を促し、活動の機会を広げます。  
また、「シェア共用部」では、子どもの育ちを地域みんなでフォローし、まちと共に育ちあおうとする「まち保育」の考え方を取り入れながら活動を展開していきます。

(2)エリアマネジメント賃貸住宅  
当物件には、9戸の賃貸住宅を併設しています。賃貸料金の一部をエリアマネジメント組織の活動費用に充てることによって、持続可能な活動となるように担保しています。

グレースシア横浜十日市場      まちのツールボックス東棟      まちの音楽室

(英山あり)

(別紙)

シェア共用部を活用したエリアマネジメント「まちのツールボックスとまち保育」概要

**1. 概要**  
分譲マンション「グレースシア横浜十日市場」開発を契機とした郊外住宅地での持続可能なエリアマネジメントのモデルケースを構築します。マンション共用部を「シェア共用部」として、多様な活動やコミュニティ形成のためのツールが備わった道具箱のような空間として地域にひらき、子育て世代を中心とした「まち保育」という考え方を取り入れた継続的なエリアマネジメント活動を計画しました。  
※地域にひらかれた場や機会を提供し、身近な地域の多世代と交流をしながら、子どもの育ちを地域みんなでフォローし、まちと共に育ちあおうとする子育てのこと

**2. 設置目的**  
子どもから大人まで、誰もが新しいことにチャレンジするきっかけとなる場所として、街の子どもや子育てを支援しながら、多様な人々の交流促進の拠点として設置します。

**3. 内容**

- まちのテラス、まちのステージ、沿道ゾーン、緑地ゾーン  
イベントスペース(展示・出店・演奏など)として街の人々が活動を披露し、発信することが出来る空間
- まちのラウンジ【スタディエリア、ビューエリア、カフェエリア、スタンドエリア】  
デスクワークや勉強、待ち合わせや休憩場所としてくつろげる開放された空間
- まちのツールボックス東棟  
交流、相談、趣味、くつろぎの場所として、ツールを使用しさまざまな活動ができる開放された空間
- ①キッチンエリア【食のキャビネット】  
料理教室や食育、食事のシェアなどを想定した空間
- ②文化・DIYエリア  
【文化、ものづくりのキャビネット】  
本のコミュニティや読み聞かせ、工作や手芸などを想定した空間



「シェア共用部」の配置図

# 企業緑地の価値転換への挑戦

## ●2021年度より住友緑化(株)との協働事業

### 『「企業緑地を活用したまち保育的環境学習の可能性についての実践研究」』

閉ざされた企業緑地のみどり資源を活用した環境学習プログラム化を図り、緑地のみどり価値見える化と、地域との共生を目指す企業の伴走支援を実施中。

#### エネ森ふれあいフェア しおり

企業緑地のまち保育利用はA5版の小冊子にまとめられ、参加者に配布しました。

このパンフレットで、イベント内容を追うとともに、環境プログラム(アクティビティ)の概要を解説します。

<p>行こうよ!</p> <p>エネ森ふれあいフェア</p>  <p>主催: ENESSE(株)</p> <p>協力: 横浜国立大学国際教養学部都市学系三輪研究室 住友緑化(株)</p>	<p>よてい</p> <p>★11月20日(土) ※雨天の場合は12月4日(土)</p> <p>9時30分 - バスツアー</p> <p>10時30分 - 12時20分 ぶれあいフェア @エネ森</p> <p>12時30分 - お昼ごはん</p>	<p>あそびかた</p> <p>★エネ森でお遊覧さんごっこをしてみよう! エネ森を使ってスタンプをのびをつくらせーゲームや森の探りつけでエネ森をもらたせー</p> <p>【エネ森を参ろう】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森のしおり教室</li> <li>森のお絵描き教室</li> </ul> <p>【エネ森をもらおう】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで作る付け飾(森の葉巻づくり)</li> <li>アートの森(ツリーづくり/木の割りつけ)</li> <li>もりめぐりすたんぷらりー</li> <li>わくわく絵画鑑賞づくり!</li> </ul> <p>【エネ森を味わおう!】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>のんびり休憩ゾーン</li> <li>ゴートゥエネオス(ヤギの園出しバーム)</li> </ul>	<p>やくそく</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森を参るための茶は飲めないよ。飲めたり日にしたりしないように気を付けよう。</li> <li>葉巻がたがたしているよ。落ちないようにしよう。</li> <li>ツリーやディスプレイに気を付けよう。</li> <li>葉巻を落とせしやさい! 葉巻に注意!!</li> <li>割ったことがあったり、葉巻が壊れたりしたらすぐに割り戻しに入ってください。</li> <li>葉巻を壊してみんなで作るよ! 葉巻!</li> </ul>
---	---	---	--

#### 表紙

主催者、協力者が併記されています。

#### 予定

タイムスケジュールが記載されています。午前中の「半日イベント」を想定しています。

#### 遊び方

今回、通貨を介在させ、価値の授受を試みます。価値創造を生む対価として、通貨を得る一方、価値を享受する対価として、通貨を支払うことで、子どもの社会性を育みます。

#### 約束

冊子の終わりに、「やくそく」で注意事項が示されています。手洗い用の水の飲水禁止や、ソーシャルディスタンスの喚起なども書かれています。

#### マップ、コース解説

しおりの5ページには、全体図が挿入され、拠点ごとに、どのようなアクティビティが体験できるか、解説されています。

しおりの14~17ページには、参加者の特性別に、推奨コースが紹介され、自由意思での参加の手助けになります。

エネ森マップ

・わくわく絵画鑑賞づくり!  
・のんびり休憩ゾーン



・森のしおり教室  
・森のお絵描き教室  
・みんなで作る付け飾  
・アートの森

<p>園工が好きな子のモデルコース</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>森のしおり教室</li> <li>森のお絵描き教室</li> <li>みんなで作る付け飾</li> <li>アートの森</li> <li>わくわく絵画鑑賞づくり!</li> <li>のんびり休憩ゾーン</li> <li>もりめぐりすたんぷらりー</li> </ol>	<p>やんちゃな子のモデルコース</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>みんなで作る付け飾</li> <li>アートの森</li> <li>もりめぐりすたんぷらりー</li> <li>森のしおり教室</li> <li>森のお絵描き教室</li> <li>わくわく絵画鑑賞づくり!</li> <li>のんびり休憩ゾーン</li> </ol>
<p>大人のモデルコース</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>もりめぐりすたんぷらりー</li> <li>のんびり休憩ゾーン</li> <li>自由!</li> </ol>	<p>高学年のモデルコース</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>もりめぐりすたんぷらりー</li> <li>森のしおり教室</li> <li>森のお絵描き教室</li> <li>みんなで作る付け飾</li> <li>アートの森</li> <li>わくわく絵画鑑賞づくり!</li> <li>のんびり休憩ゾーン</li> </ol>

エネ森マップ

- 1の池のほとり「野鳥観察舎」前の広場が、現地の拠点
- 野鳥観察舎の前に、長机・椅子がわかれ、受付が設置されました。
- この前の広場では、主催者挨拶・全体説明・諸注意伝達などが行われ、参加者は各自自由意思で、各拠点に向かいました。
- 会期中の相談やインフォメーションもここで行われました。
- 終了後、参加者はこの広場に再度集まり、成果に応じ景品などが配布されました。



# 妊娠期からまちを知る“お産歩”講座

妊婦さん向け！  
参加費無料！！

助産師  
子育て支援者と行く！

## お産歩講座

11/**SUN**  
5

11/**SUN**  
19

12/**SUN**  
3

※原則3回連続講座  
いずれの日程も  
**10:00~11:30**  
(受付開始 9:30)

参加者全員に  
マタニティグッズ  
プレゼント！

対象者：出産予定日が2024年2~4月の方で  
在住の地域で初めて出産する方  
10組予定（パートナーとぜひ！）

会場：山本助産院内 ※駐車場のご用意はありません  
横浜市補助事業親と子のつどいの広場たんぽぽ

- 内容：1回目 まちを知ろうPart1  
遊べる身近な場所を紹介！  
2回目 まちを知ろうPart2  
子育てに必要な施設を紹介！  
3回目 実際にまちを歩いてみよう  
出産後のお散歩を疑似体験してみよう！



上記QRコードから  
申し込んでください

希望者には  
保育あり！

おなかの赤ちゃんと一緒に、“これからの”子育てに  
役立つスポットを見つける「お産歩」をしてみませんか。  
子育ての味方、困ったとき助けになる場所、赤ちゃん連れ  
でも楽しい場所を、まずは地図上で妄想しながら探します。  
災害時の子連れ防災についても、まちづくり専門家と一緒に  
考えます。

また出産後の子どもとのお散歩の極意もお教えます。  
お産の前に、不安なことを少しでも軽くして、  
子育てが楽しみになるように、妊婦仲間と楽しみながら  
「お産歩」しましょう。



### ＜アクセス＞

金沢文庫駅より  
「京急バス 文11八景台住宅行」乗車  
9:15金沢文庫発への  
乗車がおすすめです！  
西ヶ谷戸より徒歩3分

問い合わせ先（担当：小橋）  
TEL:090-6928-8341(月~木 9:30-17:00)  
E-mail:tanpopo.hiroba1602@gmail.com



主催：横浜国立大学 三輪研究室・山本助産院・横浜市補助事業 親と子のつどいの広場たんぽぽ  
協力：関東学院大学 看護学部 母性看護学・（一社）産前産後ケア推進協会監事/防災士 神田明子・東京都市大学  
松橋研究室・金沢区こども家庭支援課・金沢区地域子育て支援拠点とことこ・パルシステム生活協同組合連合会



# まち保育を軸にした保育事業の展開

## ●子育てと地域づくりを掛け合わせた「まち保育」の実践を目指す

企業主導型保育施設の開設・運営(加古川市・NPO法人シミンズシーズ かわのまち保育園)

[https://greenz.jp/2022/05/31/npo\\_seeds\\_kawanomachihoiku/](https://greenz.jp/2022/05/31/npo_seeds_kawanomachihoiku/)

■地域と共に子育てを 加古川の商店街に保育園完成

ツイート シェア 0

印刷



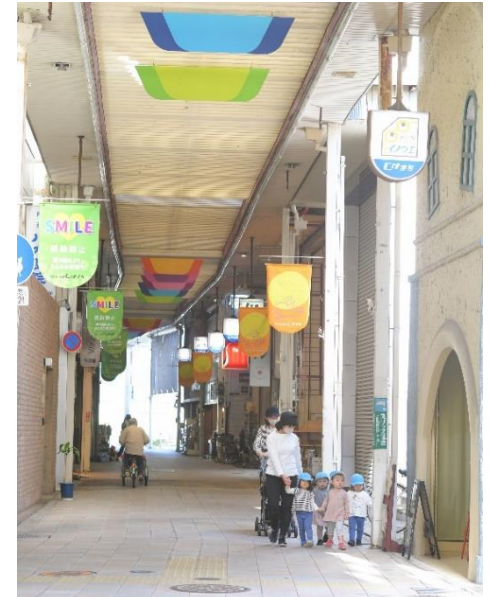
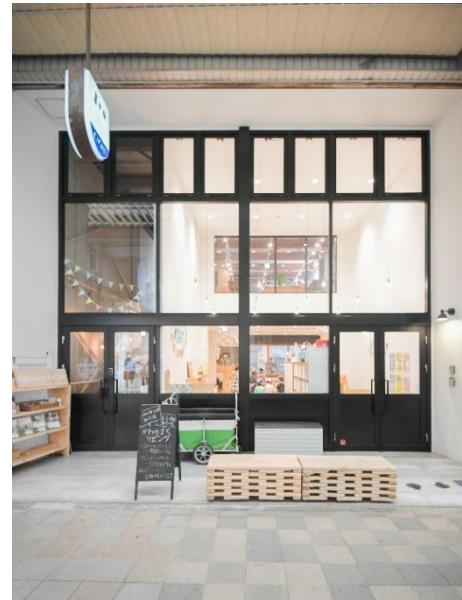
動画一覧へ



入園する子どもや家族らが訪れた内覧会=加古川市加古川町寺家町

拡大

子どもたちの外遊びや催しで地域との積極的な交流を目指す保育園「かわのまちほいくえん」が、JR加古川駅南(兵庫県加古川市)の寺家町商店街内に完成し、30日に内覧会が開かれた。6月1日の開園の前に、入園する子どもや家族、住民らが訪れた。



<https://kakogawa.keizai.biz/headline/1075/> ▲



# 群れ集うための“すき間”と“境界”のデザインの工夫 その余剰空間の価値への理解



写真4. エントランス付近に余剰スペースが確保された施設では、  
周囲を気にせずゆっくりとおしゃべりをする母親の姿が見られる



写真5. 施設出入口付近にあるシンボルツリー(桜)を利用した  
手作りのウッドベンチには、子どもも大人も自然と集まる

出典：『まち保育のススメーおさんぼ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり』  
2017年5月5日発刊（萌文社）より

# 地域と保育施設をつなぐ専門的人材の配置

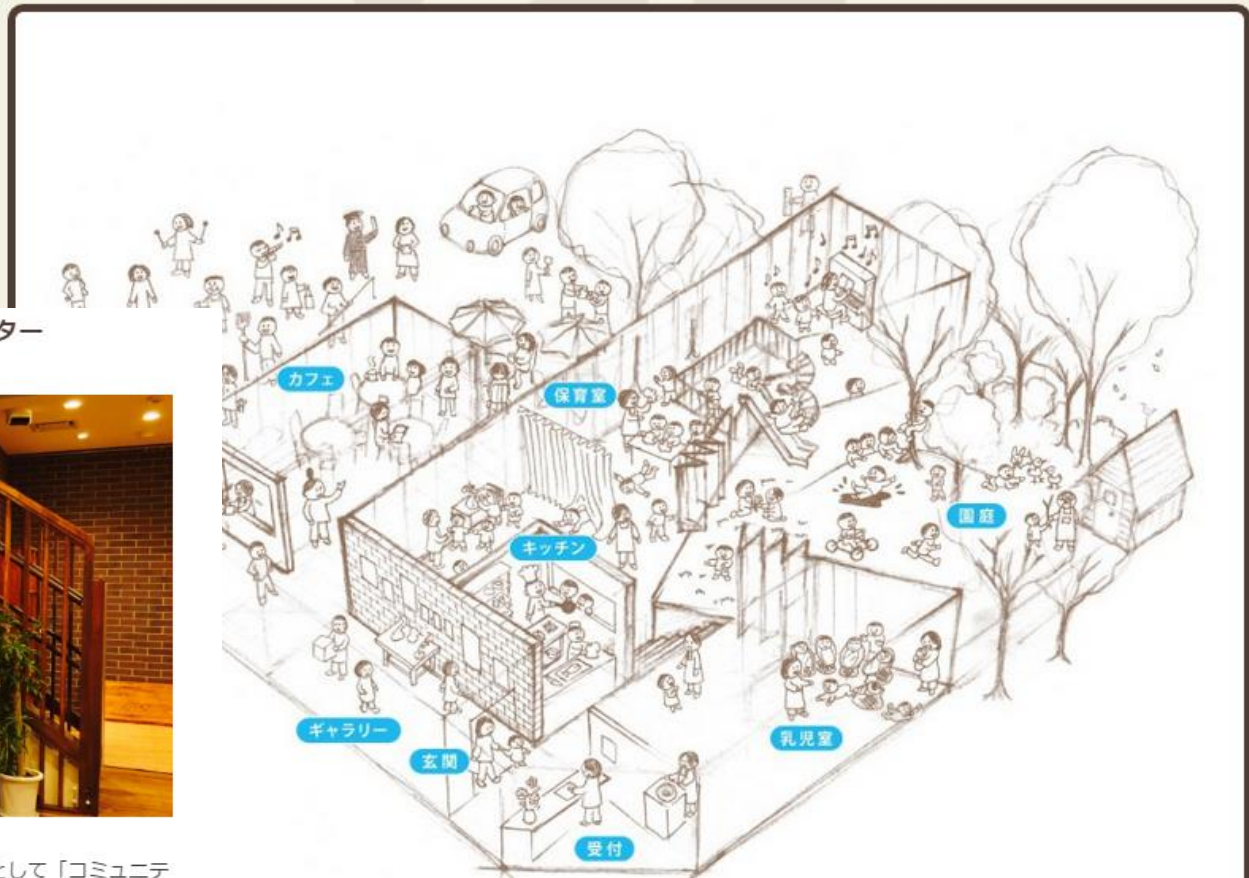
HOME まちの保育園 小竹向原 しんみ

## 保育園と地域をつなぐコミュニティコーディネーター



まちの保育園ではこども、保護者、保育士と地域をつなぐ存在として「コミュニティコーディネーター」という専任職員を置いています。コミュニティコーディネーターは事務の仕事を受け持ちながら、保育園受付にいて、こども、保育者、保護者との関係を築き、ときに保育のサポートにも入ります。先述の「コミュニティの年輪」の芯を意識して、まずはこどもについて理解を深め、こどもを中心に保育者、保護者の信頼関係を育むために動きます。時には園長、副園長、看護師らとともに、運営の方向性についての話し合いにも加わる重要な存在です。

コミュニティコーディネーターが地域に出る際には、地域の歴史や文化的背景を調べ、どのような人が住んでいるか、どのような施設があるかを把握するところから始まります。そして誰がどのような想いで暮らしているか、どのような時間帯に何をやっているか、地域やこどもへの想いはどうかなどを理解して、活動を組み



コミュニティコーディネーターとは？  
まちの保育園・こども園から生まれた  
地域と人々をつなぐ職業

<https://tailorworks.com/column/05/>

# 防災・減災の共助力増強に向けて取り組み

## ●2019年度より横浜市神奈川区こども家庭支援課との協働事業

### 『「まち保育」の観点から取り組む保育・教育施設の共助構築に向けた検討・実践』

横浜市神奈川区全幼保施設(約130施設)向けに、

- ①「まち保育を通じた保育・教育施設の地域連携の在り方勉強会」と「共助力強化ワークショップ」を研修方式で開催。
- ②区内の複数の幼保施設へは共助力を高めるための伴走支援も実施。
- ③事業の集大成として、2020年度には防災教材(まち保育×防災・減災絵合わせカード「てくてくまっち」)を開発・提供。



▲ <https://www.townnews.co.jp/0117/2019/10/31/503961.html>  
▲ <https://www.kanaloco.jp/news/social/entry-208076.html>▲



▲講座とワークショップの様子

